

和歌山県立紀伊風土記の丘 開館50周年記念 令和3年度秋期特別展

船の科学館
海の学び
ミュージアム
サポート

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

海と日本
PROJECT



うみ 海に挑み、 うみ 海をひらく

Leading the Challenge on the Sea:
Kii Peninsula's Seven Thousand Years of Cultural Exchange

2021年10月2日(土) ≫ 12月5日(日)

七千年の文化交流史

文化交流史



漁大 現権大智那



和歌山県立紀伊風土記の丘 〒640-8301 和歌山市岩橋1411 電話 073-471-6123
ホームページ <https://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp>

※今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては開催中止等の
変更が生じる場合があります。詳しくは当館HPをご確認ください。

【開館時間】9:00~16:30(入館 16:00まで)【休館日】毎週月曜日(ただし11月22日(月)は開館)、11月24日(水)
【入館料・特別展期間】一般360円(290円)・大学生220円(160円)※高校生以下、65歳以上、障害者及び県内在学の留学生の方は無料(要:証明書)
()内は20名以上の団体料金

山青し 海青し 文化は輝く
紀の国わかやま文化祭2021
第21回全国海産物博覧会・文化祭少年大会
令和3年10月30日(土)~11月21日(日)

和歌山県と三重県南部が位置する紀伊半島の沿岸部は、紀伊水道と熊野灘に臨み、多様な海岸地形や美しい自然景観が広がっています。

そこでは黒潮の恵みにより、縄文時代より近代に至るまで、漁労や製塩などを主要な生業とする暮らしが営まれてきました。

現在、紀伊半島沿岸の各地でみることが出来る特色ある歴史的風土は、各時代の海の民による暮らしや生業の歴史が重なり合い形成された側面をもつと考えられます。

また、この地域では、縄文時代以来「海の道」を通じて日本列島各地と交流がおこなわれており、近世には紀州漁民が日本各地に漁場を開いて先進的な漁の技術を伝え、商人は廻船によって盛んに交易を行いました。

本展では、紀伊半島の沿岸に暮らしした先人たちが、海とともに生き、恵みや富を得るため海をひらき、「海の道」を往来した歴史を、考古資料と民俗資料を中心とする文化財から紹介し、海の民が活躍した約7000年の文化交流史をひも解いていきます。

海に挑み、海をひらく

— きのくに七千年の文化交流史 —

シンポジウム「紀伊半島をめぐる海の道と文化交流」

11月21日(日) 10:00~16:30

「カツオ漁と紀州人」川島秀一氏(東北大学災害科学国際研究所)
 「古式捕鯨業時代の紀州と西海の交流」中園成生氏(平戸市生月町博物館・島の館)
 「伊勢・志摩・熊野の海人の実像を追う」穂積裕昌氏(三重県埋蔵文化財センター)
 「海と生きた縄文・弥生時代の人びと—かれらが海に乗り出した理由—」寺前直人氏(駒澤大学)
 「紀伊半島沿岸における海の生業と文化」蘇理剛志・萩野谷正宏(当館)
 討論司会/櫻井敬人氏(太地町歴史資料室)

電話申込 10月29日(金) 13:00~ 定員 60名(先着順) 会場 和歌山県立紀伊風土記の丘

連続講座

第1回 10月10日(日) 13:30~15:30

「弥生・古墳時代、瀬戸内の海に生きた人々と海上交通」柴田昌児氏(愛媛大学)
 「紀伊半島をめぐる弥生時代の東西交流」萩野谷正宏(当館)
 「海を介した交流の再検討—古墳時代の紀伊半島を中心に—」田中元浩(当館)

第2回 10月17日(日) 13:30~15:30

「海洋性とゆるやかな定住社会—紀州文化への視座—」野地恒有氏(愛知教育大学)
 「今に生きる伊勢湾二千年の海の歴史文化—タコ・信仰・交流—」藤井康隆氏(佐賀大学)

第3回 10月24日(日) 13:30~16:00

「古代紀淡海峡周辺の漁業と塩業」積山洋氏(大阪市文化財協会)
 「紀淡海峡の海人集団」富加見泰彦氏(元県立紀伊風土記の丘)
 「みさきの古墳と埴輪」河内一浩氏(羽曳野市教育委員会)

第4回 10月31日(日) 13:30~16:00

「紀州漁民の関東出漁と醤油」須藤藤氏(龍谷大学名誉教授)
 「海の民俗からみた日本列島のなかの紀伊半島—ウミガメの利用と信仰の習俗を中心に—」藤井弘章氏(近畿大学)
 「年表から読み解く紀州海民の活躍」蘇理剛志(当館)

第5回 11月28日(日) 13:30~15:30

「旅に出て、ふるさとに生きる一人の移動の民俗学—」松田睦彦氏(国立歴史民俗博物館)
 「戦後出稼ぎ漁業と和歌山県の漁村」今川恵氏(国立研究開発法人水産研究・教育機構)

電話申込 第1回: 9月23日(木)~、第2回: 9月30日(木)~、第3回: 10月8日(金)~
 第4回: 10月15日(金)~、第5回: 11月5日(金)~ (いずれも13:00から)

定員 各回30名(先着順) 会場 和歌山県立紀伊風土記の丘

特別展民俗芸能公演

11月14日(日) 13:30~15:30 ※詳細はホームページ等にてお知らせします。

「塩津のいな踊」(県指定無形民俗文化財) 塩津のいな踊保存会
 「三輪崎の鯨踊」(県指定無形民俗文化財) 三輪崎郷土芸能保存会

学芸員による展示解説

10月16日(土)、11月6日(土)、11月23日(火・祝)、12月4日(土)

時間: 13:30~14:30

参加費: 無料(要入館料) 参加方法: 当日受付



交通

・JR和歌山駅東口: 和歌山バス「紀伊風土記の丘」行き 約20分 終点下車
 バス発車時刻 平日/7:50 9:00 10:00 11:50 13:35 14:35 15:35
 土・日・祝日/9:00 10:00 11:50 13:35 14:35 15:35

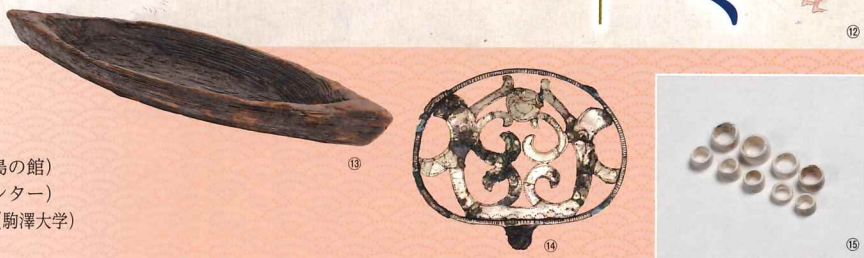
・阪和自動車道: 和歌山インターから車で約5分
 ※発車時刻は時刻表改定などにより変更になる場合がございます。

和歌山県立紀伊風土記の丘

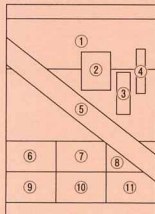
〒640-8301 和歌山市岩橋1411 [ホームページ] www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp
 [TEL] 073-471-6123 [Eメール] kofun@kiifudoki.wakayama-c.ed.jp
 [FAX] 073-471-6120 [公式ツイッター] https://twitter.com/kiifudokinooka



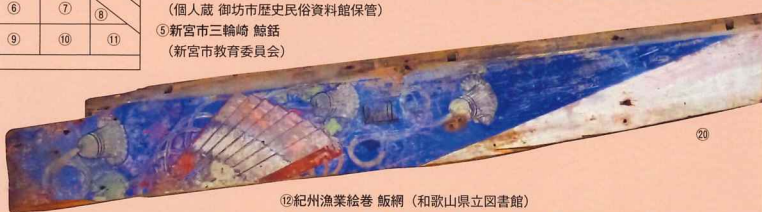
紀伊風土記の丘HP



チラシ表面写真



- 1 紀州漁業絵巻 捕鯨 (和歌山県立図書館)
- 2 和歌山市大同寺遺跡出土 家形銅 (東京国立博物館)
- 3 三重県白浜遺跡 鹿角製釣針 (鳥羽市立海の博物館)
- 4 御坊市天田橋南出土 押出型ポイント(石匙) (個人蔵 御坊市歴史民俗資料館保管)
- 5 新宮市三輪崎 鯨絵 (新宮市教育委員会)
- 6 周参見王子神社奉納船絵馬【県指定文化財】 (周参見王子神社 すさみ町立歴史民俗資料館保管)
- 7 大漁旗(観み鯛) (由良町教育委員会)
- 8 日高町産湯 地引網で水揚げされたイワシ(2000年撮影)
- 9 大漁旗 (海南市教育委員会)
- 10 和歌山南漁協すさみ支所 水揚げされたカツオ(2021年撮影)
- 11 和歌山市天塚古墳 玉類 (和歌山県教育委員会)



- 12 紀州漁業絵巻 飯網 (和歌山県立図書館)
- 13 串本町笠嶋遺跡 舟形木製品 (串本町教育委員会 無量寺保管)
- 14 三重県富山古墳 双龍環頭大刀【町指定文化財】(南伊勢町教育委員会)
- 15 田辺市高山寺貝塚 ツノ貝製小玉 (田辺市教育委員会)
- 16 万祝 (千葉県銚子市 個人蔵)
- 17 三重県熊野市 一本釣擬餌針 (熊野市歴史民俗資料館)
- 18 長崎県平戸市 手形包丁 (平戸市生月島博物館・島の館)
- 19 紀州熊野太地三輪崎鯨方捕鯨図 (和歌山市立博物館)
- 20 勢子五番船板(鯨船部材)【町指定文化財】(太地町立くじらの博物館)